

拝啓 今年も早や11月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、モミジやカエデの紅葉がきれいです。今年は、例年より紅葉がきれいに感じています。

今回は佐生健光さんの『キリスト教と称名』の第9回です。「石館守三先生(3)」のところに、次のように書かれています。

「結局、キリスト教は科学を超越する真理であることが、認識できたとき、このこと(奇跡)は解決できるのであるが、幸いなことに、私たちの教会には、一流の科学者であり、同時にしんしなキリスト者である石館守三先生がおられる。先生の胸中には二つの真理が矛盾なく生きているのを知るとき、論理ではなく、先生の存在そのものが、何よりもこの問題を解く証明となったのである。先生はまた、救われた者はいかに生くべきかを率先して教えて下さった。説教の中で、先生は言われた、「私は、人並み以上の能力の持ち主ではない、秀才でもなんでもなかったのだ」と。先生の輝かしい業績は、先生が、今、目の前におかれた薬学者としてのお仕事を、全力をあげてなされた結果であると、私は信じている。」

高円寺東教会で、小西先生はパウロ中心の説教でありましたが、石館先生はヨハネの信仰をお話になられることが多かったし、石館先生は、キリスト教の信仰は、実行してみても真理であることがわかると、何度もお話になりました。私たちは、高円寺東教会で、小西先生と石館先生から教わったことは本当に恵まれていたと思います。

11月3日(火・文化の日) 学士会館で、第17回の南原シンポジウムが開かれました。新型コロナのために80人ほどの参加でしたが、他にズームで参加された方が40名ぐらいおられ、基調講演は、元文部科学省事務次官の前川喜平先生の「教育基本法と私」で、実によい話を聞くことができました。

11月14日(土) 津山で、津山土岐家財団の理事会があり、私の3男で、土岐家に養子に行った土岐哲郎と一緒に出席しましたが、哲郎は婚約者と一緒に出掛け、理事の皆さんに挨拶してくれました。翌日、11月15日(日)、津山線の誕生寺駅で降りて、法然上人が生まれた場所に建てられたお寺誕生寺を訪問し、本堂の法然上人の像に向かって『小西芳之助の生涯』が出版できたこと、その中で、法然上人に学ぶという説教が含まれており、キリスト教に法然上人の信仰の学び方が伝えられたことを報告し、感謝してきました。

11月16日には、松戸の八柱霊園の鴨下重彦先生のお墓を訪ね、南原シンポジウムが無事終わったことの報告をしてきました。

『本の広場』に北原和夫さん(国際基督教大学名誉教授・元同志会理事長)が、『小西芳之助の生涯』の紹介文を書いて下さいました。コピーを同封します。

新型コロナが第3波ということで感染が拡大していますが、皆様も、マスク、手洗い、うがいなどを励行されまして、お元気で毎日お過ごしください。

11月23日

山口周三

エンカウターの読者各位